

## 研究論集第55集の刊行にあたって

校 長 石 川 賢

平成18年12月には、日本の未来を切り拓く教育の基本の確立とその振興を図るため、教育基本法が公布・施行されました。また、今後の教育の充実を図るため、中央教育審議会の教育課程部会などで、現行の学習指導要領の全体的な見直しの審議が進められています。

平成18年2月に教育課程部会から出された審議経過報告によると、コミュニケーション能力を重視すべきであることや知識・技能を活用する力が重要であることなどを教科横断的に明示していく必要があることが示されています。また、産業界が今、若者に求める力として、物事に使命感を持って取り組む「志と心」や、コミュニケーション能力を含めた「行動力」、そして基礎学力に加えて独創性を持ち深く物事を考え抜く「知力」などが求められているとの指摘があります。調査によると、企業が学生を選考し採用する際に重視していることについては「協調性やチームワーク」が最も多くの回答がありました。また、学校教育に期待することとしては「コミュニケーション能力」や「基礎学力などの学習の徹底」を挙げた企業が多かったことが報じられています。

このような状況の下、本校では平成17年度から「ともに学ぶよさをいかした学習指導の在り方 ―コミュニケーションする力の育成と活用―」を研究主題として研究を進めています。この研究は、生徒のコミュニケーションの知識や技能を育成するとともに、コミュニケーションする力を各教科の学習指導に活用して学力を向上させ、さらにはコミュニケーションしようとする態度を育成するというねらいがあります。本研究では、コミュニケーションする力の育成を通して目指す生徒の姿を「互いの個性を尊重し合い、適切なコミュニケーションをしようとする生徒」、「自分の思いや考えを的確に表現できる生徒」、「他者からの情報を正確に理解するだけでなく、相手の意図を考えることができる生徒」などとして研究を進めています。これまで、コミュニケーションへの関心・意欲・態度を育成するためのプログラムの開発や、各教科で話し合い活動をまじえた学習指導を行ってきました。そして、国語科や社会科をはじめ各教科で検証授業を実施し、生徒や教師を対象とした意識調査を行いました。また、学習状況や意識調査を分析し、学習指導の効果を検証しました。

本研究論集には、上述した各教科からの報告をはじめとして、多数の研究報告を掲載することができました。ご高覧いただき、ご指導ご助言をいただければ幸いです。今後は、研究をさらに進めるとともに、研究の成果を生徒の日常の学習指導や生活指導の改善に具体的に反映させ、生徒がさらに元気に、楽しく、仲良く生活できることを念願するしです。

結びに、これらの研究の推進にあたり、県内の学校や教育関係機関並びに大学などの皆様から多くのご支援やご協力をいただきましたことに、心より御礼申し上げます。